

2025年（令和七年） 3月14日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）  
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階  
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

## ■ 概況

当週（3月6日～12日）の国際石油市場は、相変わらず、トランプ政権の関税政策の動向に加え、米国景気動向、米国の対イラン政策、OPECプラスの減産緩和の動向などを要素として、やや軟化した。

NYのWTI原油先物市場は、6日、4月物終値は5営業日ぶり反発の66.36ドルで始まったが、7日は続伸したものの、10日反落、11日反発、12日は続伸の67.68ドルで終わった。

また、中東産バイ原油/東京市場（4月渡し）も、前週（2月27日～3月6日）は71.00～77.90ドルの範囲で推移したが、当週は、3月6日70.40ドル、7日70.50ドル、10日70.90ドル、11日70.40ドル、12日70.90ドルだった。

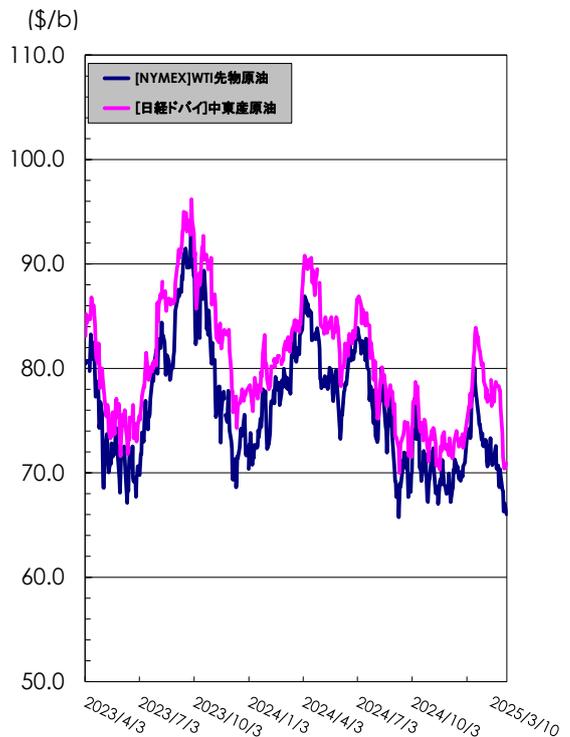
対ドル為替レート（TTM）は前週（2月27日～3月5日）149.24～150.56円の範囲で推移したが、当週は、3月6日149.25円、7日148.07円、10日147.38円、11日146.68円、12日148.08円だった。

財務省が3月7日に発表した貿易統計（速報・旬間）による

と、2月中旬の原油輸入平均CIF価格78,310円で前旬比311円安、ドル建て80.62ドルで前旬比0.46ドル高、為替レートは1ドル/154.41円。

そのような中で、3月10日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比横ばい、軽油も同横ばい、灯油は同横ばい（18リットルベース）だった。ガソリンの全国平均価格は184.1円となった。3月13日～19日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は、2.5円（補助金がない場合の次週予想価格187.5円で、185円を超える補助率100%支給部分）と、実額ベースでは前週比6.9円の減額となった。

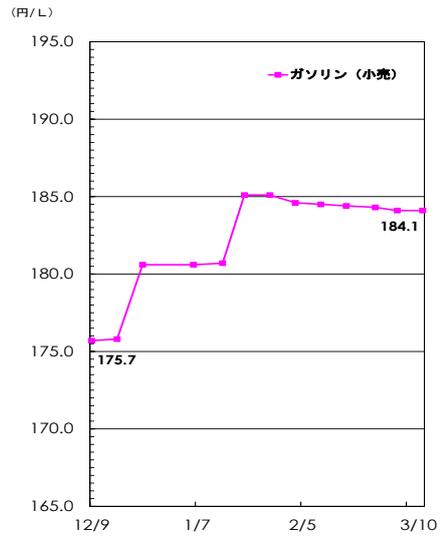
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	3/2 ~ 3/8	2,541 ▼ -15	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	73.4 ▼ -0.4	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	3/8	9,861 ▼ -212	▼ -
価格	中東産原油(日経バイ) (\$/bbl)	3/10	70.90 ▼ -2.80	▼ -10.7
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	3/10	66.03 ▼ -2.34	▼ -11.9
	原油CIF単価 (\$/bbl)	2月中旬	80.62 ▲ 0.46	▼ -3.09
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	78,310 ▼ -311	▲ 308
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	154.41 ▲ 1.51	▼ -6.27
	外国為替TTSレート (¥/\$)	3/10	148.38 ▲ 3.18	▼ -0.56



(単位: 千kl、円/%)

		今週	前週比	前年比
需給	在庫	3/8	1,493 ▼ -45	▼ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 3/4 ~ 3/10	86.0 ➡ 0.0	▲ 5.0
価格	(TOCOM/中部)	3/10	88.0 ➡ 0.0	▲ 9.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/10	184.1 ➡ 0.0	▲ 9.8

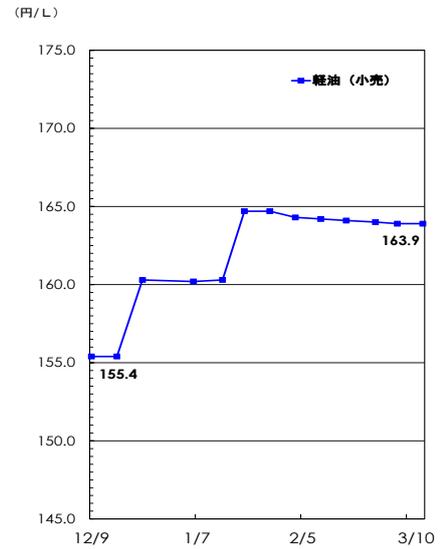
※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

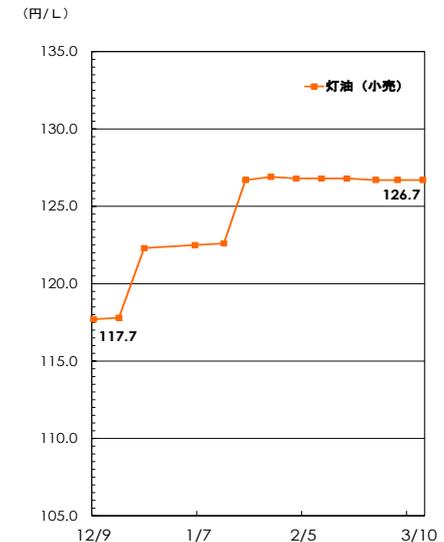
		今週	前週比	前年比
需給	在庫	3/8	1,284 ▼ -7	▼ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 3/4 ~ 3/10	90.0 ▲ 0.3	▲ 7.3
価格	(TOCOM/中部)	3/10	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/10	163.9 ➡ 0.0	▲ 9.9

※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

		今週	前週比	前年比
需給	在庫	3/8	1,443 ▼ -93	▲ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 3/4 ~ 3/10	88.0 ➡ 0.0	▲ 6.1
価格	(TOCOM/中部)	3/10	89.0 ➡ 0.0	▲ 8.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/10	126.7 ➡ 0.0	▲ 10.1



## ■ 関連情報

### 1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週（2月27日～3月5日）のNYMEX・WTI先物市場は66.31～70.35ドルの範囲で推移した。

当週、3月6日は、前日の約半年ぶりの安値を受けて、安値拾いの買いもあり、わずかに反発した。トランプ政権の関税政策への懸念の中で、適用除外の発表があり、他方、米国原油在庫の積み増し、米景気不安の拡大、OPECプラスの減産緩和方針など、上げ幅は限られた。4月物終値は前日比0.05ドル高の66.36ドル。

週末7日は、米国関税政策への不透明感の中で、ロシアのノバク副首相がOPECプラス有志国の4月からの減産緩和の延期可能性の発言があり、トランプ大統領はイランへの核交渉を迫り、「最大限の圧力」をかけたことで、続伸した。4月物終値は同0.68ドル高の67.04ドル。

週明け10日は、米関税政策の実行で世界景気停滞懸念が高まり、また、トランプ大統領も米景気停滞を否定しなかったこと、11日からのサウジでの米・ウクライナ高官協議の発表で、ロシア・ウクライナの停戦期待が高まり、ロシア原油の増加観測から、3営業日ぶりに、反落した。4月物終値は、1.01ドル安の66.03ドル。

11日は、経済先行きへの不安感の中、値ごろ感からの買い、為替市場でのドル安による原油先物の割安感から、反発した。4月物終値は同0.22ドル高の66.25ドル。

12日は、米国石油在庫が、原油は積み増しであったものの、ガソリン・中間留分ともに取り崩して、需給タイト感が出たこと、株価の回復等「リスクオフ」感が一服したこと、また、この日発表のOPEC月報で、2025年・26年の世界石油需要見通しを各前年比145万BD増、143万BD増と据え置いたこともあって、続伸した。4月物終値は同1.43ドル高の67.68ドル。

### 2 海外/米国石油市場

米国エネルギー情報局（EIA）による3月12日発表の3月7日の米国在庫週報によると、原油在庫は前週比140万バレル増と、市場予想（同200万バレル増）を下回る積み増しだったが、ガソリン在庫は同570万バレル減、中間留分は同160万バレル減と市場予想を上回る取り崩しで、需給のタイト感を感じさせた。

EIAによると、3月10日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比0.9セント安の1ガロン3.069ドル（120.1円/ℓ）と3週連続の値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比5.3セント安の1ガロン3.582ドル（140.2円/ℓ）と2週連続の値下がり。

ベーカーヒューズ社によると、3月7日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比横ばいの486基となった。

### 3 国内/原油処理量

石連週報によれば、2025年3月2日～3月8日に休止したトッパー能力は58.0万バレル/日で、前週に対して15.4万バレル/日増加した（全処理能力は311.0万バレル/日）。

原油処理量は254.1万klと、前週に比べ1.5万kl減少。前年に対しては24.8万klの減少。トッパー稼働率は73.4%と前週に対して0.4ポイントの減少、前年に対しては4.2ポイントの減少となった。

## 4 国内/製品在庫量

3月8日時点の在庫は、C重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは149.3万kl、前週差4.5万kl減。前年に対しては18.2万kl少ない。

灯油は144.3万kl、前週差9.3万kl減。前年に対しては13.2万kl多い。

軽油は128.4万kl、前週差0.7万kl減。前年に対しては18.0万kl少ない。

A重油は69.6万kl、前週差0.2万kl減。前年に対しては2.7万kl多い。

C重油は169.5万kl、前週差2.2万kl増。前年に対しては12.1万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (3/8)	前週 (3/1)	前週比
ガソリン	1,493	1,538	▼ -45 (-3%)
ジェット燃料	669	720	▼ -51 (-7%)
灯油	1,443	1,536	▼ -93 (-6%)
軽油	1,284	1,291	▼ -7 (-1%)
A重油	696	698	▼ -2 (-0%)
C重油	1,695	1,673	▲ 22 (1%)
合計	7,280	7,456	▼ -176 (-2.4%)

## 5 国内/元売会社製品卸価格

3月4日～10日のドル建て中東原油価格は前週比値下がり、為替レートの円高がこれを加速したが、元売会社の卸建値は値下げしたものと見られる。ただ、補助金は6.9円減額されるため、3/13からの実質卸価格は値上がりとなる模様。

## 6 国内/製品小売価格

3月10日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比横ばいの184.1円、軽油も同横ばいの163.9円、灯油は18%ベースで同横ばいの228.1円(1%ベースでも横ばいの126.7円)。ガソリンは6週ぶりに値下がり止まり、軽油も6週ぶりに値下がり止まり、灯油は2週連続の横ばいだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが16道府県、横ばいが8県、値下がりは23道府県だった。全国最安値は愛知県の177.3円、その次は岩手県の178.2円であった。他方、最高値は高知県の193.7円。最も値上がりしたのは和歌山県(同1.9円高)、最も値下がりしたのは京都府(同1.5円安)だった。

次回調査時(3/17)のガソリンの小売価格は、小幅な値上がり予想される。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (3/10)	前週 (3/3)	前週比	直近高値
レギュラー	184.1	184.1	➡ 0.0	23/9/4 186.5
灯油	126.7	126.7	➡ 0.0	08/8/11 132.1
軽油	163.9	163.9	➡ 0.0	08/8/4 167.4

小売価格

※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。  
次回 (2024第48号) の公表は、3/21 (金) 14:00 です。

2024年12月より石連週報の公表内容の見直しがあり、「3.国内/製品出荷量」の項目・内容を変更しました。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

#### ②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

#### ④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。